

2008年度内科スタッフは4月から7月までは楠元1名、8・9月の2カ月は済生会熊本病院からローテーションで儀部医師と、10月以降は同院須古医師と2名であった。但し循環器科 庄野副院長、消化器科 築村医師も専門科以外の内科領域を多数担当された。

外来は一般内科、初診担当を楠元（午前、午後週に2回ずつ）、須古医師（週1回）が行い、呼吸器疾患は熊本病院の専門医が担当した2007年まで行われていた糖尿病外来は、熊本病院からの派遣終了の為に楠元、須古医師で担当。患者数は新患、再診を含め2006年の約2倍、2007年の約1.2倍に増加した。また一般外来以外に救急外来の対応も連日交代で行った。

入院患者受け持ちは平均10～25名程度。年間楠元1人で約300名の担当となったが、その内、肺炎・気管支喘息等の呼吸器疾患19%、心不全・虚血性心疾患・不整脈等の循環器疾患32%、脳梗塞・脳出血等の脳疾患7%、糖尿病等の代謝疾患12%とこれら4つで全体の約70%を占めた。また半年間で須古医師も約100名の担当となり、30%以上が呼吸器疾患であった。

内科全体では、呼吸器疾患22%、循環器疾患21%、代謝疾患10%となり、約8割の患者が軽快し、自宅もしくは施設等へ退院となった。

2009年3月にて楠元が退職、須古医師が熊本病院へ戻る為、4月以降内科スタッフが不在となる。今後内科スタッフの獲得が必要である。

